

ため池決壊について

平成28年熊本地震や、平成30年7月豪雨などの近年の災害において、ため池が相次いで決壊し、下流の地域で被害が発生しています。地震や大雨によって万が一ため池が決壊した場合に備えて、ため池による被害が予想される範囲や、避難方法を確認しましょう。

ため池決壊の起こり方



ため池決壊の原因（地震と大雨）

地震

地震による強い揺れによって、堤防に亀裂や陥没などが発生したり、地盤が液状化してため池が決壊することもあります。南海トラフ巨大地震が発生した場合、新居浜市では最大震度7が想定されており、地震・津波・ため池決壊・土砂災害などの複数災害に注意が必要です。

氾濫シミュレーションの条件

ため池の氾濫解析は、それぞれのため池が満水せきのとき、大地震など何らかの原因で瞬時に決壊し、堰を切ったように水が流れ出したものとして行っています。

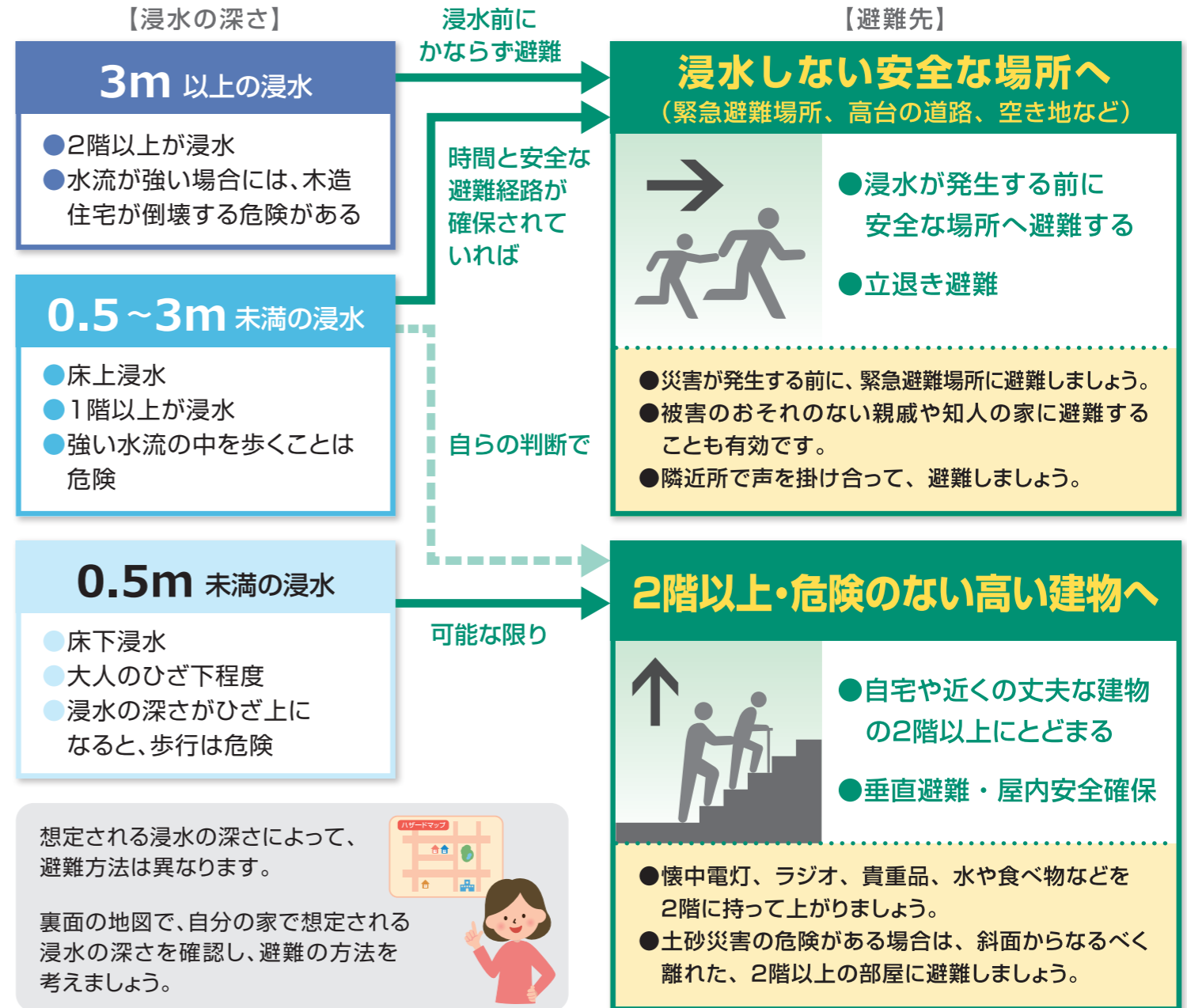
大きな河川に流れ込むことは計算されていますが、堤体が崩れることによる土石流、河川の橋梁に流木などが詰まること、小さな水路や建物などの障害物は考慮されていませんので、実際には違う流れとなる場合もあります。

大雨

集中豪雨や長雨、土砂災害や流木などによって、ため池の水位が上昇すると、堤防で漏水が起こったり、越水した水の勢いで堤防が侵食されて、ため池が決壊するおそれがあります。

ため池決壊による浸水の深さを想定した避難の流れ

ため池による災害のおそれがあるとわかった場合には、すみやかに立退き避難してください。逃げ遅れた場合は、2階以上や近くの丈夫な建物などに緊急避難してください。



こんなときは避難しましょう

大規模な地震が発生したとき



集中豪雨や長雨が降り続いたとき



避難指示などが発令されたとき



ため池に亀裂や漏水などの異常を発見したとき

市役所や、ため池管理者に連絡をお願いします。

